

先週と今週（1月4日から1月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週及び今週のインターバンク市場は、7日までは当座預金残高が380兆円台後半、8日以降は法人税・年金保険料揚げ要因により減少したことで、380兆円台半ばでの推移となった。4日の金曜日は昨年末同様に様子見姿勢が強く、出会いの中心は▲0.086～▲0.040%で、無担保コールO/N物の加重平均レートは▲0.070%と横ばいの地合いとなった。しかし、今週に入り徐々に調整の動きがみられるようになり、7日の出会いのレンジは▲0.086～▲0.04%と変わらなかったものの、調達意欲は旺盛で、無担保コールO/N物の市場残高は大幅に増加した。週後半にかけては調達サイドの市場参加者が増加し、▲0.075～▲0.02%まで上昇した。週末の金曜日は三連休となるためか、一部では調達を控える動きも見られた。ターム物は、年が明けたことで1～2W物を中心に取引が膨らみ、▲0.065～▲0.04%のレンジの出会いが多く見られた。

固定金利方式の共通担保オペは7日と11日に2W・8,000億円がそれぞれオファーされた。7日は落札額1,796億円(期落ち額1,945億円)、11日は落札額5,115億円(期落ち額5,466億円)となった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.120～▲0.075%程度のレンジで推移した。週初7日のGC T/Nは▲0.085～▲0.075%程度、8～9日は▲0.080～▲0.075%程度、10日は▲0.100～▲0.090%程度、11日は▲0.120～▲0.090%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5y135～137、10y335～353、20y164～166、30y59～60、40y10～11等に引き合いが多く見られた。

●短国市場

先週及び今週の短国市場は、8日、9日、11日と入札が相次いだことによる需給悪化懸念などから慎重姿勢が強まりレートが上昇したものの、3M物の▲0.150%を上回る水準では3月末越えの担保需要や水準感からの買いが入り、レート上昇は限定的となった。

8日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1529%、按分落札利回▲0.1455%と前回債からレートが上昇する結果となった。セカンダリーでは、結果が事前予想通りとなったことで▲0.150～▲0.145%で小動きとなった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.137～▲0.135%と小甘い出会いが見られたものの、平均落札利回、按分落札利回ともに▲0.1410%と落ち着いた結果となった。セカンダリーでは、▲0.175～▲0.155%での出会いと強含みで推移した。

11日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.145%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1504%、按分落札利回▲0.1459%と事前予想通りの落ち着いた結果となった。セカンダリーでは買い進まれる動きが若干見られた。

●CP市場

先週及び今週のCP市場は償還総額が9,500億円程度に対して、発行総額は1兆4,500億円程度と発行超となった。10・15日発行には卸売・電気機器・不動産等の業態において大型発行が見られた。期越え発行を控えていた事業法人が積極的に調達を再開したため活況なマーケットとなった。安定した低金利を背景に昨年に比べて各発行体の資金調達量は増加傾向であるため、年初の市場残高が約20兆円と昨年比で約2.6兆円増加と好調な出だしとなった。発行レートについては3月末越えや発行頻度が少なく発行残高が低い銘柄においては、一部強めの買いが見られたが、その他大方の銘柄は概ね0%での決着となった。

10日にはCP等買入オペがオファー額2,500億円で実施された。前回よりも500億円増額されているものの、高レート銘柄が対象となったことから入札結果は平均落札レート0.003%・按分レート▲0.001%と、前回（平均0.003%・按分▲0.001%）比で横ばいとなった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
1/4（金）	19,561.96	△ 0.040	107.63	△ 0.070	△ 0.098	3,876,100
1/7（月）	20,038.97	△ 0.020	108.49	△ 0.068	△ 0.088	3,882,000
1/8（火）	20,204.04	0.010	108.74	△ 0.066	△ 0.082	3,868,800
1/9（水）	20,427.06	0.025	108.90	△ 0.062	△ 0.081	3,853,500
1/10（木）	20,163.80	0.020	107.93	△ 0.058	△ 0.092	3,862,500
1/11（金）	20,359.70	0.010	108.40	△ 0.058	△ 0.124	3,862,000

来週（1月15日から1月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/14 (月)	成人の日				
1/15 (火)	12月のマネースtock(日銀 8:50) 11月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)				12月の米生産者物価指数
1/16 (水)	11月の機械受注統計(内閣府 8:50) 12月の企業物価指数(日銀 8:50) 11月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	5Y 20,000億円 1/17発行	交付税借入 10,500億円 1/24借入		11月の米企業在庫 12月の米小売売上高 12月の英消費者物価指数
1/17 (木)		TB1Y 21,000億円 1/21発行			12月の米住宅着工件数 12月のユーロ圏消費者物価指数改定値
1/18 (金)	12月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 43,400億円 1/21発行	流動性供給 6,000億円 1/21発行	交付税借入 10,500億円 1/28借入	12月の米鉱工業生産・設備稼働率 1月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/14 (月)	成人の日								
1/15 (火)	2,500	▲ 7,900	▲ 5,400	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 5,500 ▲ 300 700 100	5,100	100	▲ 5,300	源泉税揚げ TB3M発行▲43400償還41200 2Y償還8000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3600 個人向け償還900
1/16 (水)	3,000	1,000	4,000	CP買入		2,500	2,500	6,500	
1/17 (木)	2,000	▲ 19,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	5Y発行▲20000
1/18 (金)	1,000	▲ 1,000	0	被災地支援			0	0	交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	8,500	▲ 26,900	▲ 18,400	—	▲ 5,700	8,300	2,600	▲ 15,800	

1/15は日銀予想、1/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日は積み最終日となるため、調整の動きが入ると予想される。16日以降の無担保コールO/Nは積みの序盤となるため、多少低下すると見られる。

レボ市場は、引続き投資家の動向次第であるが、▲0.100%前後でのレート推移を予想する。

短国市場は、17日に1Y物、18日に3M物の入札が実施予定となっている。短国買入オペが年末からオファーされていない中、入札が今週に3回実施された一方で、堅調なマーケットが続いていることもあり、短国買入オペの動向が注目される。

CP市場は、CP等買入オペが16日に実施予定となっている。発行残高が高水準であり、前のオペからのインターバルも短く、オファー額が2,500億円と小規模であるため横ばいの結果が見込まれる。

主要なイベントとしては、16日の12月の英国CPI、18日の12月の全国CPIなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入